

# 伊藤晋家文書目錄

## 凡 例

- 一、 本目録は、大津市北小松の種徳寺の住職である心山義昭氏より2011年に保管を委託され、2013年に寄贈された伊藤晋家文書239点の目録である。
  - 一、 目録の項目は、年月日・文書名・備考・頁数・請求番号である。
  - 一、 年月日は、史料の作成年月日をとった。作成年月日が明記されていない場合は、本文等から推測した年代を（ ）で、全く未詳の場合は「――」と記した。
  - 一、 文書名は、原題をとり、適宜（ ）で内容を補足した。原題のないものについては、（ ）で文書名を付した。
  - 一、 備考では、差出宛名を「差出→宛名」と表記したほか、本紙・付属物等に関する特記事項を記した。絵図については、法量をタテ×ヨコで表記し、単位cmは省略した。
  - 一、 頁数は、一紙を「通」、巻子を「巻」、一穴綴を「綴」、二穴以上の綴を「冊」（但し、複数の文書を合綴しているものは「綴」、絵図を「点」、包紙・断簡等を「枚」とした。
  - 一、 判読不明な文字は□で示した。
  - 一、 旧字体・異体字・俗字は常用漢字に改めた。
  - 一、 紙幅の都合上、住所に「近江国」「滋賀郡」等とあった場合、目録上での重複を避けて省略した。
  - 一、 目録順については、分類項目毎に編年して配列した。配列にあたっては、一括関係を崩さないことを原則としたため、編年順よりも一括関係を優先させた箇所もある。一括の中で編年した上で、その最も古い文書の年月日で全体の配列の中に組み込んだ。
  - 一、 以下の一括関係については、文書一点ごとの内容を考慮して、目録上では一括関係を崩して分類せざるを得なかった。ただし、実際には合綴の状態のまま保存している。
- 箱一括 1～17、塗り箱一括19～27、木箱一括30～38、本箱一括39～48、行李一括49～74、後補袋一括76～96
- 一、 分類項目は、「中世文書」「神社・神職」「村方争論（神職）」「村政」「家」「書状（伊藤正徳等）」「書籍・刷物」「その他」「民俗資料」の9項目である。
  - 一、 分類項目について、以下に特記事項を示す。
    - ① 神社・神職      十禅師社・天満宮神主としての職掌や社殿・境内の管理・運営等に関する史料を収めた。
    - ② 村方争論（神職）      上記と区別して、宝暦七・八年の十禅師社・天満宮をめぐる村方との争論（解題参照）に関する史料を収めた。
    - ③ 村政              鵜川をめぐる打下村との争論（解題参照）の関係史料はすべてここに収めた。
    - ④ その他              『近江国滋賀郡誌』や『小松村史』の編纂や、近代以降の古文書の使用に関する史料はここに収めた。
  - 一、 本文書の整理・データの作成は、堀井靖枝・南田孝子が行い、目録の編集は青柳周一・宇佐見隆之が当たった。

※本目録は、平成28年度科学研究費助成事業（基盤研究(A)）「『菅浦文書』の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」（研究代表者・青柳周一、課題番号16H01944）による成果の一部である。

# 中世文書

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
永祿7年9月21日	池田忠知條々	池田忠知→伊藤筑前入道・同家中衆、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	11
天正17年7月10日	形部書状	形部→い藤民部直頭力、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	12
大永2年8月1日	六角氏奉行人連署奉書	高橋他1名→伊藤、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	7
1月27日	里斉書状	里斉→、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	3
2月2日	承禎書状	承禎→小松伊藤、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	6
2月10日	浅井長政感状	浅井備前守長政→伊藤等菊、木箱	1巻	29
2月17日	小出善左衛門広重書状	小出善左衛門→徳兵衛、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	4
6月26日	小松惣庄書状案 2通	小松惣庄→坂本三浜(6月26日)、小松惣庄→堅田惣庄(6月28日)、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	8
7月1日	中庄隆久書状案	中庄隆久→小松名主役人、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	9
7月5日	伊庭貞隆書状	出羽守→小松乾力、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	10
12月4日	明智光秀書状	(明智)光秀→伊藤同名中、箱一括1～17、貼接一括1～2	1通	2
12月10日	承禎書状	承禎→小松伊藤、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	5
12月20日	豊臣氏奉行人連署書状	長束大藏大輔正家他3名→、箱一括1～17、貼接一括1～2	1通	1

# 神社・神職

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
元文3年1月	元祖伊君大鬘殿祠記	河合正行→、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	13
(宝永2年3月)	[比良本庄小松庄社社領并二坐組図]	開扉不能、後補袋	1点	75
正徳5年11月	当社境内御除地ニ付御検地御奉行永井文九郎様差上ル証文留	北小松村神主三治→、後補帶封、行李一括49～74	1冊	73
正徳5年11月	乍恐以書付奉願候(大般若経転読祈禱のため一村惣作杜田年貢免除)	北小松村氏神十禪師天満宮二杜社守三治→検地奉行、後補袋一括76～96、紐一括76～81	1通	77
正徳5年12月7日	[十禪寺社・天満宮阿社境内絵図控]	88.7×41.5、北小松村神主三治・庄屋長兵衛他9名→永井文九郎様検地奉行、紙筒	1点	28
正徳6年5月	乍恐以書付を御願申上候(宮田は寿伯他3名預り・神田は伊勢講中抱の旨)	北小松村庄屋長兵衛他8名→永井文九郎様検地役人中、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1通	82
延享4年2月	一札之事(氏神拜殿建立ニ付宮作事大工喜三郎世話申入)	年行事長者伊藤忠左衛門他13名→北比良村大工九郎兵衛	1通	167

## 神社・神職

年 月 日	文 書 名	備 考	頁数	記録
延享4年2月	〔大工喜三郎・九郎兵衛違論ニ付和濟証文〕	伊藤又三郎他2名→	1通	168
宝暦5年3月	天満宮奉納和歌二十首	河合正行→、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	14
宝暦6年8月27日	奉願覚(御許状等)	北小松村十禪師之洞官伊藤三郎右衛門→吉田役人中、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1通	84
宝暦6年8月28日	〔神道裁許状〕(北小松村十禪寺天満宮阿杜神主伊藤祐治着風折烏帽子狩衣)	神祇管領長上從二位神祇權大副卜部朝臣兼雄→、塗り箱一括19～27、包紙一括19～21	1通	19
(明和5年3月15日)	御宮記録 永代覚帳	〔御宮様用事控扣〕(寛政6年1月、西湖小松里汪人伊藤文之進・藤原吉友→)と合綴	1綴	147
安永6年1月	乍恐以書付奉願上候(氏神十禪師天神神主繼目願ニ付添簡)	北小松村父伊藤民部他1名→大津役所	1通	166
安永6年2月1日	〔神道裁許状〕(北小松村十禪寺天満宮阿杜神主伊藤祐喜着風折烏帽子狩衣)	神祇管領長上正二位卜部朝臣兼雄→、塗り箱一括19～27、包紙一括19～21	1通	20
天保2年1月	乍恐以書付奉願上候(十禪師天満宮神主繼目願ニ付添簡)	父伊藤民部他1名→賢田役所、後補袋一括76～96、紐一括76～81	1通	78
天保2年2月6日	〔神道裁許状〕(北小松村十禪寺天満宮阿杜神主伊藤祐広着風折烏帽子狩衣)	神祇管領長上正三位侍從卜部朝臣良長→、塗り箱一括19～27、包紙一括19～21	1通	21
天保2年2月	奉指上一札(繼目許状願ニ付添簡故障なく沙汰)	北小松村十禪師天満宮神主伊藤三郎右衛門→本所役所、後補袋一括76～96、紐一括76～81	1通	81
天保10年1月	一札之事(後日故障無)	種徳寺閼堂→伊藤民部、後補袋一括76～96、紐一括76～81	1通	79
天保11年2月	覚(社頭向修理寄付金神納)	吉田山社頭向修理方役所→北小松村十禪寺天満宮阿杜神主伊藤民部、後補袋一括76～96、紐一括76～81	1通	76
嘉永6年3月	諸国神社挂札帳	北小松村阿杜神主伊藤民部→、後補封筒、行李一括49～74	1冊	71
嘉永6年7月	〔御宮神事記録〕	行李一括49～74	1冊	64
嘉永7年4月15日	〔天津祝詞・中邑祓等書繼〕	高島郡川上庄角ノ神社前神主七十五翁紀光陶→、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	16
嘉永7年6月22日	祝詞	藤原兄久、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	15
明治9年9月13日	私祭要集祝詞 全	著述者京都府乙訓郡第二区向町向日神社祠掌六人部是暉父故六人部是香→、出版人京都府上京第三十区中白山町池村久兵衛、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	38
明治10年4月26日	〔樹下神社祠掌申付書〕	滋賀県→伊藤友長、木箱一括39～48	1通	39

神社・神職

年 月 日	文 書 名	備 考	員 数	議 録
明治10年 4 月	祠掌推挙ニ付願書(樹下神社)	氏子総代北小松村松井武右衛門他 1 名→滋賀県権令籠手田安定、表紙に㊟の朱印あり	1 冊	160
明治10年 5 月20日	祠掌拝命御届(樹下神社)	北小松村樹下神社祀掌伊藤友長→滋賀県神道事務分局中	1 冊	161
明治10年12月11日	証(建築基礎金受納)	大津神宮日吉教会所・神道事務分局→伊藤友長、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1 通	37
明治11年 4 月	祠掌推挙ニ付願書(樹下神社)	氏子総代北小松村松井武右衛門他 1 名→滋賀県権令籠手田安定	1 冊	159
明治12年12月	改式御届(葬祭之義郷社白鬚神社神官へ依頼)	村社樹下神社祠掌伊藤友長→滋賀県神道事務局中	1 冊	158
明治17年12月26日	〔布達書〕(墓地及埋葬取締ニ付地図二通提出)	滋賀県令中井弘→、提出物雛形を添付	1 通	157
明治20年 1 月31日	〔杜格社号等提出方申入〕	滋賀郡北小松村外二村戸長役場→伊藤友長、帳はずれ	1 通	156
明治26年 1 月20日	〔樹下神社祠掌継続認可書〕	滋賀県知事大越亨→北小松村大字北小松樹下神社祠掌伊藤友長他六名、帳はずれ	1 通	155
明治28年 1 月	氏神田玉垣寄附帳		1 冊	146
明治35年 9 月	〔県内神社由緒調査書〕	県社神田神社兼郷社小野神社々司馬場美川源行光→、表紙に「比良乃山かせ乙 積威の舎」とあり	1 冊	99
明治37年11月21日	〔樹下神社社掌申付書〕	滋賀県→伊藤友三郎、木箱一括39～48	1 通	41
明治42年 8 月 7 日	証明書(夏期講習会学科受講)	滋賀県神職会本部→伊藤友三郎、木箱一括39～48	1 通	42
明治43年 1 月	村社 樹下神社宮殿井附属建物図	技江西島元治良→	1 冊	145
明治44年 4 月30日	領収証(四十四年度協議員報酬)	万木六之助他14名→区長池田又治良	1 冊	154
昭和17年 6 月30日	〔樹下神社社掌免職通知書〕	滋賀県→村社樹下神社々掌伊藤友三郎、木箱一括39～48	1 通	44
昭和17年 8 月10日	〔樹下神社社掌申付書〕(八級俸給)	滋賀県→伊藤友三郎、木箱一括39～48	1 通	43
(昭和43年12月10日)	〔神社財産・神事等ニ付覚書〕	後補袋一括76～96	1 冊	95
(昭和51 年)	〔昭和51 年度樹下神社予算議案書〕		1 綴	120
昭和52年 8 月21日	〔通知〕(樹下神社規則等役員申し送り書類の送付)	代表役員宮司伊藤晋他 1 名→樹下神社役員	1 通	122
昭和52年 7 月 3 日	〔神社役員会議事録〕	宮司(筆記者)伊藤晋→、閲覧不可	1 通 (8紙)	121
昭和52年	昭和51年度宗教法人樹下神社決算書	樹下神社代表役員宮司伊藤晋→	1 綴	119
昭和53年 2 月12日	神社財産を区の収益事業の為の区の借入金の担保に供して呉れとの申出の財産処分には指導機関との神社本庁並神社庁監督官庁としての滋賀県及内務省の意向御伺	北小松樹下神社代表役員宮司伊藤晋→	1 通 (3紙)	123
昭和61 年	〔書簡〕(日吉大社退職挨拶)	伊藤晋→、木箱一括39～48	1 通	48

## 神社・神職

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
子 4 月26日	〔神社除地・人数改帳面差上二付→札〕	北小松村法泉寺・同村神主伊藤三郎右衛門・種徳寺他3寺・同村庄屋六郎右衛門他1名→、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	83
卯 1 月28日	吉田御殿御内人馬貳貫帳	伊藤民部→	1 冊	132
午 1 月	寛(年頭敬詞満悦之旨申入)	吉田家江州掛り小谷牧太同人出府中代役鈴鹿中努→	1 通	149
未 3 月20日	丹後国加悦町大虫大杜天満宮御戸開並太々神楽式		1 冊	170
2 月16日	〔上京召状〕	鈴鹿下野守他2名→伊藤民部	1 通	148
2 月21日	〔書状〕(本所社頭向修理ニ付寄付金受納挨拶)	小谷牧太→伊藤民部、後補袋一括76～96、組一括76～81	1 通	80
――	〔十禅寺社等諸事記録〕	〔第二拾五号 明治十七年四月二拾九日 大阪控訴裁判所 判事大岡孝賢 関〕等の書込あり	1 冊	104
――	諸連絡(拜殿屋根の修理について)		1 通	124
――	〔樹下神社付近地図〕	複写物	3 枚	125
――	〔帳簿表紙一括〕	大正13年の「神社明細帳 樹下神社」の表紙等あり	4 枚	129
――	〔先祖・神社関係資料複写物一括〕		4 枚	130
――	式百廿番 吉田山諸社御修理 寄進日掛銭請取之通	吉田山社頭向修理方役所世話方→伊藤民部	1 通	150
――	式百廿一番 吉田山諸社御修理 寄進日掛銭請取之通	吉田山社頭向修理方役所世話方→伊藤民部	1 通	151
――	〔氏神宮番人五人目五郎兵衛証文写〕	宝永3年の証文写	1 通	164
――	〔氏神宮番人五人目五郎兵衛証文写〕	164と同文	1 通	165
――	〔樹下神社地図〕		2 枚	235

## 村方争論(神職)

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
宝暦7年3月7日	寛(絵図古証文等文九郎へ上リテ)	後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	85
宝暦7年3月19日	乍恐口上書を以奉申上候(若者神事妨害村方騒動ニ付)	北小松村庄屋六郎右衛門→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	88
宝暦7年3月	神職争論村方閨頭免勤日記	伊藤令体→、後補付箋挟込、行李一括49～74	1 冊	65
宝暦7年3月	乍恐以書付御断奉申上候(祭礼にて狩衣着用ニ付村方若者妨害の旨吉田家へ届)	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	86

村方争論(神職)

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求料
宝暦7年3月	年恐以書付御断奉申上候(祭礼にて狩衣着用ニ付村方若者妨害の旨吉田家へ届)	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	87
宝暦7年3月	年恐以書付奉御願申上候(与吉御幣取り去りニ付吟味)	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	89
宝暦7年3月	年恐以書付奉御願申上候(与吉御幣取り去りニ付吟味)	82と同文、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	90
宝暦7年5月23日	[村中騒動ニ付神職立ち行くよう吟味願書]	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、前欠、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	91
宝暦7年6月	年恐奉願口上書(天満宮社扉錠取り替え等村方無法ニ付吟味)	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	92
宝暦7年6月	年恐奉願口上書(天満宮社扉錠取り替え等村方無法ニ付吟味)	北小松村神主伊藤民部→石原清左衛門役所、勘剥がれにより2分割だが継ぎ目合わず、85の下書か、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	93
宝暦7年7月3日	済証文之事(十禅師天満宮両社神主役并ニ扉錠前ニ付出入)	北小松村頭百姓利右衛門他5名・神主伊藤民部・取扱人法泉寺他5名→石原清左衛門役所、行李一括49～74	1 通	49
宝暦7年7月3日	寛(此度の出入内済)	北小松村百姓利右衛門他5名・神主伊藤民部・取扱人法泉寺了義他5名→石原清左衛門役所、後補袋一括76～96、後補封筒一括82～94	1 通	94
宝暦7年7月28日	年恐以書付御願申上候(氏神扉錠前ニ付出入内済暖入方へ書付)	北小松村伊藤民部→石原清左衛門役所、行李一括49～74	1 通	51
宝暦7年7月	寛(錠・出入・湯立神事等ニ付内済)	北小松村百姓利右衛門他5名・伊藤民部・法泉寺・頭百姓代源内他4名→石原清左衛門役所、行李一括49～74	1 通	50
宝暦7年7月	一札之事(神職願の儀託び)	願主久兵衛・請人→伊藤民部、行李一括49～74	1 通	61
宝暦8年1月29日	一札之事(打替錠前・鍵・出入・湯立神事ニ付)	北小松村百姓利右衛門他5名・頭百姓代源内他3名・取扱人法泉寺他3名→、前欠、行李一括49～74	1 通	52
宝暦8年2月5日	一札之事(久兵衛神職願・打替錠前・鍵・出入・湯立神事ニ付)	石原清左衛門役所、行李一括49～74	1 通	53
宝暦8年2月5日	一札之事(久兵衛神職願・打替錠前・鍵・出入・湯立神事ニ付)	北小松村百姓利右衛門他5名・頭百姓源内他3名・庄屋新六他2名→石原清左衛門役所、行李一括49～74	1 通	54
宝暦8年2月	一札之事(神職願の儀託び)	願主久兵衛→伊藤民部、行李一括49～74	3 通	55

## 村方争論(神職)

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求料
宝暦8年2月	一札之事〔神職願の儀託び〕	北小松村神主伊藤民部他2名→吉田役所、行李一括49～74	2通	60
卯1月28日	神玉取立	宮様せハ方→伊藤民部	1通	174
申12月15日	〔書状〕(社頭修理ニ付日掛講通ひ持参依頼)	小谷牧太時□→伊藤民部	1通	181
3月1日	〔書状〕(神鏡寄附の義取障無様申達)	山田造酒→伊藤民部他1名	1通	180
3月2日	〔書状〕(神田久兵衛の事示談お尋ね、社家多くなれば繁盛と申すもの)	山田典膳祐→伊藤民部、行李一括49～74	1通	56
---	乍恐書付奉御断申上ケ候(行事方氏神錠前合鍵拵ニ付)		1通	173
---	寛(神事装束ニ付神職百姓争論の旨承りたく)	→山田造酒	1通	175
---	〔赦免願〕	前欠	1通	176
---	〔神事ニ付白張之義赦免願〕		1通	177
---	一札之事(村方民部神職妨一件ニ付内済)		1通	178
---	〔願書下書〕(村方狼藉神職妨害ニ付)	北小松村神主伊藤民部→、「右者大津御役所へ之願書之積りニ認見申候」と書込あり	1通	179
---	〔書状〕(神職妨不致様願い)	キイチ→民部	1通	183
---	一札之事(氏神社神職一切構間敷)	請人誰・当人久兵衛・扱人法泉寺→	1通	186
---	一札之事(神事白丁にて勝手次第の段承知)	本人→、「是者大和屋宗七下置ニ書出シ申候」と書込あり	1通	187
---	〔内済証文断簡〕	喜三郎他12名→伊藤民部、前欠、「大津表ニ而此通内済致候へ共、吉田様御心得無御座候」と書込あり	1通	191
---	〔参会覚〕(御宮家督村方へ取上等)	〔断簡〕を巻込	1通 (2紙)	197
---	〔伊藤民部名代并ニ宮番来歴覚〕	帳外れ、行李一括49～74	1枚	57
---	一札之事(久兵衛神職願并ニ打替錠前ニ付村中申し合わせ)	後欠、行李一括49～74	1通	58
---	乍恐書付を以奉願上候(村方若きものの神事妨害ニ付)	後欠、行李一括49～74	1通	59
---	〔神主役の儀等出入一件・寺社除地・寺社人数改めニ付留書〕	延享1年～宝暦7年の写、行李一括49～74	1冊	67



村政

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	録 簿
寛永7年3月	鵜川浦船積論裁許目録	比良本庄小松庄→	1冊	108
天和2年4月	鵜川新開古今増減	内表紙上書「鵜川本開起添反敵改帳」	1冊	107
宝永3年12月25日	証文書写御上覧奉入候	北小松村五郎兵衛→伊藤三次	1通	163
宝永3年	江州志賀郡小松之庄与音羽新庄与山論目録	永享八月～慶長十七年の古文書を筆写したもの	1冊	111
正徳1年8月	絵図裏書写(鵜川村北小松村田地争論裁許)	撰津・駿河・紀伊→北小松村・鵜川村・打下村庄屋・年寄・惣百姓	1冊	171
正徳2年3月3日	鵜川田地耕作口相手妨日記		1冊	109
正徳4年9月	諸式覚帳(争論ニ付江戸出訴記録)		1冊	101
正徳5年10月25日	川々普請場所見分目録	行李一括49～74	1冊	66
享保8年4月	御訴訟留書(打下村と田畑出入)	～享保9年	1冊	113
寛保4年2月21日	壳渡シ申田地之事	請人喜右衛門他1名→九兵衛・文末に「ひかへ」とあり	1通	162
文政13年11月	議定一札之事(堀田撰津守領へ分地ニ付借財返済等)	北小松村仁助他169名→堀田撰津守他1名、箱一括1～17、貼接一括3～12	1通	17
明治10年10月22日	地券	滋賀県→北小松村種徳寺、198～199包紙(明治41年大阪毎日新聞)一括	1通	199
明治15年9月11日	〔北小松村松井五兵衛に身代限り申付通達〕	大津治安裁判所書記局→北小松村戸長役場	1通	153
(明治)15年9月11日	〔封筒〕	大津治安裁判所→滋賀県北小松村戸長役場	1枚	200
昭和47年6月20日	〔謄本添付書〕	同庁裁判所書記官大角正夫→	1通	201
11月14日	〔書状〕(ハ右衛門流罪御免、關所高二付)	小林新六→伊藤治左衛門	1通	172
――	江州志賀郡小松庄与音羽新庄与堺論目録	永享八年～延宝六年の古文書を筆写したもの	1冊	106
――	江州検地高郡里名別帳	十禅師・天満宮→	1冊	110
――	〔諸入用覧〕	「預り申し御宮番之事」(宝永3年12月25日、北小松村五郎兵衛→伊藤三次)を合綴	1冊	112
――	鵜川靜論起	宝永7年～正徳1年の古文書を筆写したもの	1冊	114
――	〔小松青年会会則〕	「小松青年会々員名簿」と合綴	1冊	152
――	〔反別図〕(甚太郎)	256×34.4	1点	202
――	〔反別図〕(助二郎)	25×34.4	1点	203
――	〔堺争論下絵図〕	168.7×250.6、後補箱上書「北小松打風堺論絵図及裏書 文政年間議定書」	1点	229
――	〔芝野新開・新屋敷分取目録〕	行李一括49～74	1冊	74

## 家

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	録 音
延宝2年	古文状寄書(中世文書等)	天文3年～延宝2年の伊藤家の古文書を筆写したもの	1冊	102
享保6年7月	伊藤家先祖留		1冊	115
明和1年12月	一札(夫庄八名跡二付一言申分無)	美濃屋庄八後家もと他6名→美濃屋兵助他1名	1通	169
明治10年10月22日	地券	滋賀県→北小松村持主伊藤友長、198～199包紙(明治41年大阪毎日新聞)一括	1括 (15通)	198
明治22年4月16日	戸主家名ヲ廃シ他へ縁付御願(伊藤友長へ養子)	高島郡大溝村字勝野村伊原富蔵他5名→高島郡長山村総俊、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	30
明治22年5月16日	分家御願(伊藤友長長女志加)	北小松村伊藤友長他3名→滋賀郡長中西秀夫、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	35
明治22年5月25日	御取消願(伊藤友長へ養子縁付の件)	高島郡大溝村字勝野村伊原富蔵他5名→高島郡長山村総俊、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	34
明治22年5月26日	御取消願(伊藤友長へ養子縁付の件)	高島郡大溝村字勝野村伊原富蔵他5名→高島郡長山村総俊、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	36
明治22年10月7日	戸主家名ヲ廃シ他へ縁付御願(伊藤志加へ入籍)	高島郡大溝村字勝野村伊原富蔵他4名→高島郡長山村総俊、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1冊	31
明治26年4月15日	〔伊藤友長忌明祭詞〕	塗り箱一括19～27、包紙一括22～25	1通	24
明治27年5月15日	〔褒状〕(小松尋常小学校教員控所増築費寄付)	滋賀県知事徒四位勲四等大越亭→小松村伊藤友三郎、行李一括49～74	1通	70
明治28年3月25日	〔賞状〕(学業優良)	小松尋常小学校訓導古我雅芳→補習第一学年生伊藤友三郎、木箱一括39～48	1通	40
〔明治30年9月13日〕	〔伊藤志加子葬儀祭詞〕	塗り箱一括19～27、包紙一括22～25	1通	25
昭和15年4月29日	志那事変従軍記章之証	實勲局総裁従三位勲一等下條康磨→陸軍衛生准尉勲八等伊藤晋	1通	196
昭和17年	履歴書(伊藤友三郎)	大字北小松伊藤友三郎→、木箱一括39～48	1冊	46
〔昭和18年10月1日〕	〔伊藤啓太郎葬儀祭詞〕	塗り箱一括19～27、包紙一括22～25	1通	23
〔昭和20年9月7日〕	〔伊藤友三郎葬儀祭詞〕	塗り箱一括19～27、包紙一括22～25	1通	22
昭和36年	〔伊藤家系図一括〕	謄写印刷物、封筒	4枚 13部、4枚	126
〔39年1月29日〕	〔葉書〕(家内中災難諸道具等焼失二付困却)	大字北小松筒井金兵衛→台湾基隆要塞砲兵大隊第壹中隊伊藤友三郎、木箱一括39～48	1通	45

## 家

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
5月6日	〔書状〕(昨日入来の札)	安村馬守重治→伊藤厚得老宿所	1通	116
――	〔諸事留書〕(伊藤家先祖事跡等)		1冊	103
――	覚(懐妊時に男子・女子を知る方法等)	近江国住伊藤三→、後補帯封に「伊藤三次重光死の直前の書留書」とあり	1冊	133
――	小松庄惣民姓系之寄	表紙に「是凡改済、系図分之姓入」とあり	1冊	135
――	〔伊藤二家系図覚書〕	〔法名記〕合綴	1綴	137
――	〔経教目録等級〕		1綴	138
――	〔諸氏来状等写〕	小松伊藤「」→	1冊	139
――	系図(伊藤氏)	明治16年10月9日付の判事補山内璞の検閲印あり、〔伊藤氏系図〕(享保14年4月5日、京都伊藤十郎兵衛→)他1通を巻込、木箱	1巻	18
――	〔伊藤氏系図〕		2通	239
――	〔先祖命日覚〕	塗り箱一括19～27	1通	26
――	池田友一結婚親族書	塗り箱一括19～27	1通	27

## 書状(伊藤正陰等)

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
宝暦7年7月28日	乍恐以書付御願奉申上候(神事之節白鳥着到、吉田家伺い返答)	包紙・紙縫一括204～228	1通	224
宝暦7年	〔書状〕(貴様家来申付頼み)	正隠→、包紙・紙縫一括204～228	1通	207
1月19日	〔書状〕(山田氏手紙鈴鹿縫殿より参)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	212
1月28日	〔書状〕(社下役之儀決二付御出願)	山典膳→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	223
2月8日	〔書状〕(殿様申上候事の返事二付)	同正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	220
2月10日	〔書状〕(九兵衛家来下り申付)	同正隠→伊藤民部亮、包紙・紙縫一括204～228	1通	213
2月16日	〔書状〕(民部書状頼みの件札)	山田典膳→伊藤正隠、包紙・紙縫一括204～228	1通	222
2月17日	〔書状〕(惠観年忌首尾良く珍重、山田氏面談勧め)	正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	208
2月20日	〔書状〕(大津表済、吉田へ御出二付家老衆へ御札)	伊藤正隠→伊藤民部亮、包紙・紙縫一括204～228	1通	209
3月13日	〔書状〕(吉田二のこし置三品無念等)	正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	210
3月27日	〔書状〕(大津罷越様子も承りたく)	同正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	206
5月8日	〔書状〕(吉田表又は筆工代其外世話等)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫一括204～228	1通	227

## 書状(伊藤正隆等)

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
5月10日	[書状] (当神事着用の狩衣貸代等)	正隠→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	217
5月28日	[書状] (大津役所頼一件、かりきぬかりちん等)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	204
6月8日	[書状] (大津井吉田願書早々願出之旨)	伊藤正隠他1名→伊藤民部他2名、包紙・紙縫→括204～228	1 通	205
6月17日	[書状] (大津表吉田へ願出時期二付)	同正隠→伊藤三郎右衛門、包紙・紙縫→括204～228	1 通	218
8月11日	[書状] (神主之義沙汰無)	正隠→三郎右衛門、包紙・紙縫→括204～228	1 通	219
9月24日	[書状] (宮之儀相談・吉田表之首尾台)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	215
11月3日	[書状] (すいき等札・付本進上等)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	211
11月19日	[書状] (半紙五帖等差下・ひうお調達依頼)	伊藤正隠→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	216
28日	[書状] (七つ時仕舞帰り)	正隠→伊藤三郎右衛門、包紙・紙縫→括204～228	1 通	214
---	書付申置事(仏壇送りニ付位牌等配り方)	正しいん→伊藤民部、包紙・紙縫→括204～228	1 通	221
---	[久兵衛神職差構い申さずニ付一札控]	包紙・紙縫→括204～228	1 通	225
---	[吉田渚口・許の証文等ニ付書付]	包紙・紙縫→括204～228	1 通	226
---	[和歌書付]	断簡挟み込み、包紙・紙縫→括204～228	1 通	228

## 書籍・刷物

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
(元禄3年7月)	[仏像図彙目録]	後欠	1 冊	143
元禄9年9月	天満天神一生記 上下	比良小松庄伊藤重光→、小口に「天満宮記」とあり	1 冊	105
享保15年5月13日	神代巻下筆記	行李→括49～74	1 冊	68
享保16年1月	藻塩草 字海節用大藻綱目 完	刊記に江戸日本橋須原屋茂兵衛、裏表紙に「伊藤氏牛之助」	1 冊	141
天明4年1月11日	三社託宣考	伊勢平蔵貞丈→、最終丁に「広眸堂蔵」の書き込みと「志賀郡和邇馬場美川」の印あり、裏表紙見返しに「此書者江戸府勤番申段綱泰公拝領之仕候もの也 嘉永四辛亥年七月 朽木源綱年」とあり	1 冊	131
享和1年8月	伊勢二宮佐き竹の弁	本居宣長→、刊記に江戸須原屋茂兵衛他2名	1 冊	136
文化8年7月	倭訳 陰陽録 全	印施→	1 冊	134
7月	新板 つれゝ、草下		1 冊	145
---	[法華経大意]	本主伊藤武七良→、巻末に書込「西州小松邑伊藤義祐」とあり	1 冊	100
---	[牛科撮要序等写]	裏表紙見返しに「堀田若狭守様大坂御加番之節御城内ニ而御家中竹林三右衛門殿書之 伊藤三郎右衛門祐治 戊元文三年午八月四日 巳元文四年未八月迄大坂城内ニ勤申候」	1 冊	140

## 書籍・刷物

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
----	〔御文章〕		1 冊	142
----	十二運四悪十悪七目之伝	京無学庵→心居士→	1 枚	184
----	〔吉田社・都名所案内刷物〕	吉田殿冠烏帽子司中村 佐右衛門→	1 枚	185
----	〔古今集三木三鳥考写一括〕	〔平貞丈述〕とあり	6 枚	97

## その他

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
(天和2年8月)	〔呪詞呪文等覚書〕	龍王山海蔵寺玉雲師呪詞師重光→、後補帯封、行李一括49～74	1 冊	63
大正14年3月10日	借用証(伊藤家古文書)	中村直勝→伊藤友三郎、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬・伊藤家」一括30～38	1 通	32
昭和8年8月	〔小松村史編纂関係書類綴〕	伊藤友三郎→	1 冊	98
昭和50年2月20日	領収書	大津市中央2丁目ハソングループ有限会社大津複写センター大橋→上	1 通	127
昭和56年12月	〔『近江地方史研究』第十四号抜粋〕(「佐々木崇永版大般若経についてー正禪寺蔵本と樹下神社蔵本を中心にしてー」土井通弘著)	各ページ余白に伊藤氏の終戦後の経緯について書込あり、木箱一括39～48	1 綴	47
昭和58年	〔「近江国比良荘絵図」出陳承諾依頼書〕	滋賀県立琵琶湖文化館館長片岡長五郎→伊藤晋、伊藤家先祖についての後筆書込あり	1 通	128
6月27日	〔書状〕(廿六日吟味様子承り)	吉とし→□一郎	1 通	189
8月	都人考作の書(いろはうた)	浪花梅本→、前欠	1 通	117
----	〔御仏供米袋〕		1 点	118
----	集覚(生酒・卵等)	□崎村中川 丈助	1 通	182
----	〔山水画〕	70.0×29.6	1 点	188
----	〔島津家中居城琉球・九州等石高書付〕	断簡	1 通	190
----	〔断簡〕(説教刈萱の文言)		1 通	192
----	〔包紙〕	上書「此書附者栄三郎事祐広継日節入用書付也」	1 通	193
----	〔試毫〕	伊藤房次郎→裏面に朱筆で「吉書」と書込	1 通	194
----	〔包紙〕	上書「吉田様々大津石原清左衛門殿江被遣候御状之写」とあり	1 通	195
----	〔覚書〕(伊藤三郎重光)		1 綴	230
----	〔享保八年卯四月訴訟留書写し〕	「伊藤家古文書第一九号」とあり	1 綴	231
----	〔正徳元年絵図裏書等写し〕		2 通	232

## その他

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
---	[第六学年社会科学学習指導案・記録等一括](種徳寺供養碑)	指導者林直→	7 枚	233
---	[覚書](伊藤加賀守・伊藤当菊)		1 通	234
---	[佐渡西三州砂金関連資料]	帝封上書「佐渡の金山より伏見江三駄宛砂金を送る 小松がその本宿であったと云ふ」	1 括	236
---	[覚書](享保二年北小松村惣百姓口上)		1 通	237
---	[覚書]([江源武鑑下巻]記事)		1 通	238
---	郡誌編纂出品目録	小松村大字北小松樹下神社社掌伊藤友三郎→郡誌編纂委員玉井栄四郎、木箱裏書「嘉永六癸丑仲冬 伊藤家」一括30～38	1 冊	33
---	[方言・紅毛口等書上帳]	書込「文政三年辰五月吉日 伊藤氏時宗尉」、行李一括49～74	1 冊	62
---	算術指南帳	ひらひ井上→、行李一括42～67	1 冊	69
---	共有文書をお預り活用せられたくお願	大字北小松伊藤晋→滋賀県立図書館長、行李一括49～74	1 綴	72
---	[整帳用紙一括]	罪下敷を挟込、後補袋一括76～96	15枚	96

## 民俗資料

年 月 日	文 書 名	備 考	員数	請求番号
---	[板木](正五位尉伊藤民部 江州滋賀郡北小松邑)	木箱上書「江州志賀郡北小松村伊藤民部様 吉田殿家山田典膳」、箱の蓋は流用の物使用	1 点	240

## 解題

本目録は、旧滋賀郡志賀町北小松(現大津市北小松)の伊藤晋家に伝来した文書239点の目録である。

この文書群は、かつては『近江国滋賀郡誌』(明治16年)や『小松村史』(請求番号98)『小松村史編纂関係書類綴』(昭和8年の編纂委員囑託状などがある)に使用され、近年では『志賀町史』第2巻(平成11年)および4巻(平成16年)でも大きく取り上げられた。財団法人元興寺文化財研究所による調査が行われたこともあり、同研究所刊『比良山系における山岳宗教の研究』(昭和55年)に、201点分の文書目録が掲載されている。その後所在不明となっていたが、立教大学の蔵持重裕氏が科学研究費補助金(基盤研究C)による研究『歴史における生活・生態史の連鎖と断絶―水辺集落の構成と展開―』(平成20～23年)において、北小松の種徳寺で調査を行った際に、同文書が伊藤晋氏の遺志により種徳寺に預けられていたことを確認した。平成23年に種徳寺の住職である心山義昭氏より当館が同文書の保管を委託され、平成25年に改めて寄贈されることとなった。

伊藤家は、北小松村の惣領守である十禅師社と天満宮の神主を代々勤めた家である。同家文書中には自身の神職としての活動や伊藤家自体に関わる史料と、北小松村の運営に関連して保管された史料とが共に含まれている。

伊藤家の歴史について、『近江国滋賀郡誌』には11世紀半ば頃に「伊藤祐治」が「コノ地ヲ拓」いたと記されているが、その根拠は明らかではない(『志賀町史』)。なお請求番号11「系図(伊藤氏)」にも、「祐治」という名前は見当たらない。同系図によれば、伊藤家は14世紀頃には西伊藤と東伊藤に分かれたようで、東伊藤の祐信については「依尊氏公約命、佐々貴家旗頭」と注記されている。さらに、その孫の祐吉には「建武以後、佐々木家於先陣度々、軍功多」さらに三代後の経祐の項には「江州浅井郡之内、所謂内保・八日市・当目・小室・今庄・酢村・早崎・加村・八島九郷領都合、佐々貴家代為忠臣」とある。これらを受けて『志賀町史』では、「南北朝時代頃に伊藤氏は佐々木京極氏と被官関係にあった」と推測している。

その後、佐々木氏惣領家六角氏の湖西進出にともなって、伊藤氏も六角氏との被官関係を成立させるようである。「中世文書」の分類に収めた請求番号5、6の承禎書状、7の大永二年(1522)の六角氏奉行人連署奉書、10の伊庭貞隆(六角氏重臣で近江国守護代)書状、11の永祿七年(1564)の池田忠知(六角氏被官)條々などが、六角氏と伊藤氏との関係を物語る。さらに請求番号29の浅井長政感状、2の明智光秀書状、1の豊臣氏奉行連署書状などによって、湖西の支配体制の変遷と、それにもなう伊藤氏の時期ごとの立場をうかがうことができる。また、2は宛名が「伊藤同名中」、8は差出が「小松惣庄」であり、これらは中世湖西での村落自治について考える上でも注目される。

請求番号11「江州志賀郡小松之庄与音羽新庄与山論目録」には、永享八年から十二年(1436～40)にかけての小松荘と音羽荘による境争論に関する文書などの写し収められている(この史料自体は宝永三年(1706)の作成。争論の中で、音羽荘の打下(高島市勝野打下)は小松荘との中間に位置する鶴川山に侵入を繰り返しており、慶長九年(1604)には鶴川沖での打下衆による網魚をめぐる小松惣中と伊藤次郎左衛門が訴訟を起こしている。近世以降も打下村、北小松村にとって鶴川は争点であり続け、宝永七年(1710)にも再び同地での山論が発生した。正徳元年(1712)、京都町奉行所において北小松村の主張が認められたが(同17「絵図裏書写」)、打下村と鶴川村はこの裁許を不服として、江戸の評定所まで持ち込む事態へと発展する。そして享保元年(1716)、今度は一転して北小松村の敗訴となった。この境争論に関

する史料は、村落運営関係の史料と合わせて「村政」の分類項目に収めている。

評定所での争論の過程で伊藤三次重光以下53人が<sup>3</sup>牢につながれ、40人が<sup>4</sup>刑死・獄死したことは北小松村にとって重い記憶として残り、享保二年には犠牲者の供養碑が種徳寺に建立された(『志賀町史』)。地元では、この供養碑が小学校での社会科の授業で取り上げられたこともあったようである(同233「第六学年社会科学習指導案・記録等一括」(種徳寺供養碑) )。

近世文書としては、宝暦七年(1757)に発生した十禅師社・天満宮をめぐる村方争論の関係史料の点数が多い。一連の文書はすべて「村方争論(神職)」の分類項目に収めたが、このうち「神職争論村方闘頭龜勤日記」(請求番号65)によれば、争論の発端は「宮座中間」において、古来神主は2人(伊藤民部・神田久兵衛)であったとして、民部1人で勤めることを問題視した点にあったようである。その後、神事の遂行や社殿の管理などをめぐって民部と村の「若ひ者」との間で衝突が生じ、民部は大津代官の石原清左衛門へ訴え出ている(同51等)。詳細は後考に委ねるが、近世村落における神職と住民との関係を研究する上でも興味深い事例である。

(青柳周一)